

世界に誇る日本の先端医療？

その他の予防医学と豆知識

日本の医療は世界最高峰とも言われておりますが、その理由を私なりに考えてみました。OECD 世界経済協力開発機構加盟国 30 国との比較データがございましたので、お知らせいたしますね。人口 100 万人当たりの MRI 台数は日本は 40 台で世界ダントツで 1 位です。その数はヨーロッパ全ての国の総計よりも多く、2 位アメリカ (20 台) の 2 倍もあるとのこと。また同人口当たりの CT スキャンの台数は日本は 93 台で、これもダントツで世界 1 位です。2 位はお隣韓国なのですが、31 台ですのなんと 3 倍も持っているとのこと。イギリスに至っては 7 台とのことでした。

WHO 発表 (2006 年) の平均寿命は 1 位が日本で 82 歳。アメリカは 26 位で 78 歳でした。最低は 36 歳のジンバブエで 136 位。この平均寿命の増加が日本医療の貢献として使われている数字ですね。しかし 100 歳以上になるとはたしてそうなのかと考えさせられます。日本は人口 1 億 2 千万人に対して 28000 人の 100 歳以上の方がいるとのこと。しかしその 6 割以上が寝たきりです。一方アメリカは人口 3 億人に対して 14 万人もの 100 歳以上の方がいるとのこと。しかもその 6 割以上が自立しているというのです。平均寿命は日本が優れておりながら、健康長寿は実はアメリカに圧倒的に負けているという、このことを皆さんはご存知でしょうか。どうしてこのようなことが起こるのでしょうか。答えは次の統計です分かりますと思います。

OECD 加盟国 30 国の乳児死亡率 (1000 人の乳児のうち、亡くなった乳児数) を比較してみましよう。

最も優秀な 1 位は日本で 3 人 / 1000 人です。アメリカは日本の 2 倍以上亡くなっており 7 人 / 1000 人で 25 位です。ちなみにジンバブエは 146 人 / 1000 人になります。つまり乳児が多く死亡すると、平均寿命が下がるのですが、日本は非常に優秀であるため平均寿命は下がらないのです。最先端医療の本場アメリカがなぜ乳児死亡率が悪いのでしょうか。これは保険制度に依存しております。日本のような国民皆保険制度はなく、お金がない人は医療を受けることがアメリカではできません。スラム街で生まれた黒人の赤ちゃんが医療も受けられずに多く亡くなっているという現実が、この乳児死亡率を表しているのです。したがって、平均寿命だけで国の医療を評価することは非常に危険なのです。これは数字のマジックですね。

世界が羨むほどの最先端医療機器に我々日本人は恵まれており、早期発見早期治療を掲げ進歩してきた日本医療ではございますが、病人は一向に減ることはなくむしろ増え続けているという現実。数字のマジックにごまかされないよう皆様もご注意頂きますよう、お願いいたします。



医療法人 照庭会

あかね台 眼科脳神経外科クリニック

Akanedai Clinic of Ophthalmology and Neurosurgery